

# 早期水稻情報 第1号

J A む な か た  
北筑前普及センター

本年の田植は、4月14日頃から始まり、ピークは4月下旬でした。  
4月下旬の気温は平年並みで降水量が少なく、5月上旬の気温は平年より低く降水量が多い状況です。  
生育は概ね順調で、スクミリンゴガイによる食害も少ない状況です。  
今後の管理は、下記の事項に注意して行いましょう。

## 1. 水管理・中干し

極端なかん水不足や深水にならないよう注意して浅水管理を行い、分げつの発生を促しましょう。分げつが旺盛になってきたら間断かん水を行ってください。

また、野菜跡では早めの間断かん水（小ヒビ入れ）を行って、ガス抜きを促しましょう。

### ● 中干し開始時期

分げつの発生を見ながら、

コシヒカリでは目標茎数の7割（坪60株植えて1株15本程度）

夢つくしでは8割（坪60株植えて1株17本程度）を確保したら中干しを開始してください。

#### ★中干しの効果

1. 土壌中へ酸素を供給し、根の生育を旺盛にする。
2. 無効分げつの抑制と倒伏防止（窒素の過剰吸収を抑える）
3. 土壌が固化するため、収穫前まで適切な水管理が行える。

※中干しの開始時期は、下表を参考にほ場で分げつ数を確認して判断してください。

田植時期	中干し開始時期(目安)
4月下旬	5月下旬～6月初旬

### 《中干し前後の水管理》

- 中干しは、足形がやっとなつき、田面に小指がはいるくらいの亀裂ができる程度に行いましょう。白乾状態が長く続く場合は、生理機能低下や断根などで稲が傷むので、走り水を行いましょう。
- 中干しの期間は1週間程度ですが、降雨が続き土が乾かない場合は長めに行います。
- 中干し終了時期は、幼穂が出来はじめる頃です。《出穂の1ヶ月前》  
※平年の生育では6月中旬（6/15～20）が終了時期の目安です。
- 中干し終了後は、根腐れを防ぐために、水を溜めっぱなしにせず、間断かん水を行いましょう。

## 2. 病虫害防除

梅雨に入ると、葉いもちの発生が心配されます。発生の動向に注意して、補正防除を行ってください。また、葉いもちの発生原因となる置き苗は直ちに除去しましょう。

(防除薬剤は令和7年産早期栽培稲作ごよみを参照)

### 3. 中後期除草剤の使用

雑草の生育が進むと中後期除草剤の効果が低下するため、散布時期が遅れないようにしましょう。また、散布するときは使用時期の移植後日数や収穫前日数に注意しましょう。

#### ◎中後期除草剤

農薬の登録情報は令和7年5月19日時点

対象雑草	除草剤名	使用時期	使用量 (10a 当り)	
ノビエ アゼガヤ キョウヌメヒ	クリンチャー 1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4.0葉期まで (但し収穫30日前まで)	1kg	湛水
		移植後25日～ノビエ5.0葉期まで (但し収穫30日前まで)	1.5kg	
	クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6.0葉期まで (但し収穫30日前まで)	薬量 100mℓ 水量 100ℓ ※展着剤加用	湛水 落水
	トドメMF乳剤	移植後14日～ノビエ7.0葉期まで (但し収穫50日前まで)	薬量 200mℓ 水量 100ℓ	
広葉 ヤツリグサ	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	移植後15日～収穫45日前まで	薬量 700mℓ 水量 100ℓ	落水
ノビエ 広葉 ヤツリグサ	クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ノビエ5.0葉期まで (但し収穫50日前まで)	薬量 1000mℓ 水量 100ℓ	
	ロイヤント乳剤 ※	移植後20日～ノビエ5.0葉期まで (但し収穫45日前まで)	薬量 200mℓ 水量 100ℓ	湛水 落水
	アクシズMX 1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4.0葉期まで (但し収穫45日前まで)	1kg	湛水
	レプラスジャンボ	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで (但し収穫60日前まで)	10パック (400g)	

落水処理は、散布の1～2日前に落水し、薬剤が雑草によくかかるように散布し、散布後3日間は水を入れない。

※ただし、ロイヤント乳剤を落水状態で散布した場合は3日以内に入水する。

#### ★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 除草剤散布後は止水期間(1週間程度)を遵守
- ④ 散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を3回通水し、洗浄
- ⑤ 防除履歴の正確な記帳